

イラン国内で初の国際交流展

群炎美術協会

会員の作品51点を展示

群炎美術協会は1月、在イラン日本大使館と共催し、『日本文化週間』の一環としてイラン国内2カ所で初の国際交流展を開きました。最初は1月18日から20日までイランの古都イスファハーンの現代美術館。次いで25日から29日まで首都テヘランのイラン・アーティスト・フォーラムに、群炎の副会長ら7人が同行し、空路運んだ会員の作品51点を展示、各地で大歓迎を受けました。また、日本大使館からは出品者全員に感謝状が贈られました。

各会場では、会員が茶道のお点前や、書道の実演を行い、日本文化週間と相まって大変な歓迎を受けました。作品の輸送では、欧米諸国の制裁の影響で、イラン航空が成田空港に乗り入れが出来ず、続行不可能かと思われましたが、航空会社を変更、現地に赴く会員7名の機内荷物扱いで、51点の作品を運びました。

我々が決断し得た背景には、モハンマド・ハザイ(Mohammad Khazaei)氏のイラン国内での展覧会に伴う経費を支援するという、物心両面の並々ならない氏の熱意と誠意が、我々を日本から一万キロも離れたイランへ駆り立て、今回の成功に導いてくれたことをとりわけ強調しておかなければなりません。

イラン交流展の開幕(イスファハーン)



開会式の様子



イスファハーンでの展覧会 1/18~20



会場となった現代美術館



展覧会の準備をするイランのスタッフ



日本文化週間のポスター



在イラン日本大使館・特命全権大使 駒野大使の開会宣言



混雑する絵画展示室



茶道のお点前をする岡田会員



会長挨拶を代読する盛山副会長



書道の揮毫・長谷川副会長と久世会員

1月19日からのオープンに備え、1月18日も展示会場の美術館に出かけ、梱包を解かれた作品の点検と、キャンバスの枠付け、額の作成が現地の方々を中心に進められた。皆さん大変手慣れて、我々は展示場所の選定を打ち合わせする程度で、ほとんど、手を出さず、お任せした。我々の展示の他、日本の外務省が大地震に見舞われた日本の東北地方の被災地の児童の絵と、写真を展示する準備も同時に進められた。イランもかつて大地震に見舞われ、その時、日本も復興に協力したこともあり、日本の災害に対する関心も高く、会期中、多くの方々から激励の言葉を頂き、世界は一つなのだと、実感した。



エマーム広場の景観



午後3時頃には会場も一段落してきたので、エマーム広場のバザールにショッピングに出かけ、絨毯や装飾品やピスタチオなどいろいろ見ながら、通訳のトニーさん(Mr.Sirous Haghgooei)の名案内で楽しんだ。彼は通訳のみならず、いろいろの面で、我々全員を行き届いた配慮で、フォローし、快適な旅を演出してくれた。Mr.Sirous Haghgooeiは、我々のイラン滞在中の通訳として、今回の我々の交流展を成功に導いてくれたMr.Mohammad Khazaeiとともに、大きな役割を演じて戴き、それに加え、両氏のご家族の皆様が、全面的に滞在中、バックアップしてくださり、我々一同、温かい友情の輪の中で充実した日々を過ごさせていただき大変感謝すると共にこのような温かいおもてなしを戴いたイランの皆様へ厚くお礼申し上げます。



バザールを案内するトニーさん



次に、テヘランに移り、テヘランでの展示会の会場である現代美術館を訪問した。標高1300メートルの高地に位置するテヘランは5000メートル級の高山を背景に展開した大都市で、車が多すぎて、排気ガスが気になる環境。飾付けや、会場内の確認をし、一休み。この後、surpriseとして夕刻より大使公邸に招かれ、夕食の後、



テヘラン展・会場～アーティストフォーラム

大使から感謝状が授与され、51点の作品を苦勞して持ち込み、実現した今回の交流展が大きな展開になり、現地に来られなかった出品者にも感謝状が授与された。



展示会場内で展示会スタッフの顔合わせ

テヘラン展の現地スタッフとの顔合わせも行われ、1月25日から始まる「日本文化週間」での交流展の準備が進められた。



開会式での駒野大使



会長挨拶を代読する盛山副会長



地元武道家による剣舞披露



群炎メンバーの紹介・挨拶

1月25日 テヘランでの展覧会が始まった。イスファハーンと同じくここ、テヘランでも「日本文化週間」という形で行われ、大使のお話では、イランで日本大使館が開設され、83年たち、今迄もこの催しを毎年、行ってきたが、今年のような大きな展覧会になったことは記念すべきことといわれ、我々が参加したことをおおいに喜ばれた。実現迄、いろいろあったが、この展覧会を積極的にバックアップして下さったMohmmad Khazaei氏をはじめイスファハーンでの行き届いた通訳兼世話係の通称トニーさん(Sirous Haghooei 氏)、日本大使館の中尾一等書記官をはじめとする大使館の方々、おおくの人たちに支えられてこの意義深い交流展が実現出来たこと、この経験をこれからの美術活動に生かしていくこと、そして、この催しを通じて、日本が欧米とは一線を画して築いてきたイランとの良好な関係をこれからも続けて行かねば、と、強く思った。

あっという間の半月間だったが、今回の交流展がきっかけとなり、帰国してから、今年の6月24日、今度は、在日本イラン大使館の文化交流センターの発足式に招かれ、その席上、イラン大使館のイランイスラム共和国文化公使ユセフ氏の挨拶の中で、日本におけるイラン文化センターの開設の目的は、イランと日本、この二つの国の文化交流にあります。

この文化交流は、いろいろな芸術の分野例えば書道、絵画、音楽、演劇、映画等で行われることが可能です。近年、日本の芸術家のイラン訪問、イランの芸術家の日本訪問が、目を見張るほど増加いたしました。私たちは、この交流をもっと増やすことができると考えております。それによって、もっとお互いの貴重な芸術的、文化的に考慮するご意見の数々に触れることが出来るようになるものと存じますと述べられ、これからの両国の発展の為に力を尽くして行きたいと結ばれた。

【完】



絵画展示室の様子



在イラン日本大使館での正式晩餐会に招かれる